

第3期第14回生涯学習センター運営協議会 議事要旨

〔日 時〕2017年10月30日（月）10:00～12:00

〔場 所〕生涯学習センター 視聴覚室

〔出席者〕※敬称略

委 員：太田 まゆみ、大野 浩子、白崎 好邦、島田 忠次、辰巳 厚子、中村 香、中里 静江、
前田 美幸、柳沼 恵一
以上 9名

事務局：板橋センター長、加藤担当課長、小林管理係長、松田事業係長、齊藤主任（記録）

〔欠席者〕岩本 陽児、上村 まり、陶山 慎治、
以上3名

〔傍聴人〕2人

〔資 料〕

- ・あるべき姿（役割）と具体的な手立て（機能）（資料1）
- ・委員の意見（当日資料）
- ・東京都公民館連絡協議会の活動について（当日資料）

議題

1. 生涯学習センターの役割と機能について「あるべき（目指すべき）姿」とその「具体策」

会 長：資料1は、第11回の運営協議会でご議論頂いた「あるべき姿」と、第12回の運営協議会でご議論頂いた「具体策」を、それぞれ議事録の中からピックアップして5つの項目に分類してまとめたものである。今後、運営協議会として報告書を作成することを意識し、どのような事業展開が出来るかという点について、「今後の検討事項」の欄を埋めるような形で進めていきたい。1つ目の項目に「地域の課題を解決する学習」というキーワードを掲げたが、抽象的な部分もあるので、より具体的にしていきたい。では、既にお読みいただいていると思うので、補足意見を出された委員からご発言をいただきたい。

委 員：あるべき姿（役割）の1行目に「2025年問題を取り上げる」という記載があるが、2025年問題のみならず、社会の変化に合わせた今日的な課題を生涯学習で取り上げたいかがだろうか、という意味である。例えば他にも、一億総活躍社会の実現、あるいは多文化共生世界の構築、最近では移民の受け入れといったような問題などもある。昨今、自立だとか自己努力・自己責任が求められている時代だが、社会の変化はどう移り変わっていくのか、どのような新たな課題が出てきているのかという、生涯学習としての情報を学ぶ場の提供が重要だと考えている。もちろん今までの講座でもたくさん取り入れられており、最近受講したグローバル時代と家族、LGBTの問題といった講座は内容のある良い講座であった。つまり、そのような今日的課題を取り上げて学びの場を提供することが、生涯学習の役割として大切だという趣旨である。さらに、『内容の高い国際政治は生涯学習センターで行い、健康寿命を延ばすための講座等は小学校などで行う』について、私も同じような発言をしたが、私の発言の趣旨は、仮にことぶき大学と市民大学を統合するとすれば、2階建て構造にして、1階建ての部分では従来のことぶき大学の知識や教養といった趣味的な分野を行う。また市民大学でもことぶき大学と同じような内容を扱っているので、そこも1階部分に下ろし、2階部分では市民大学の「地域を育てる」というテーマで講座を構成してはどうかということである。ことぶき大学と市民大学では、年齢構成もテーマも似通っており、違いが明確ではない。1本化するのが自然だ、という思いである。ことぶき大学という名称そのものも、「老人は60歳以上」という時代のイメージとダブリ、時代にそぐわない。「ことぶき」という言葉は「老人」「高齢者」「隠居された方」というイメージで良くない。70歳でもピンピンしている時代である。一方で若者の参加者が少ないということだが、年金や介

護や福祉は若者にも共通した課題である。若者の参加者を増やすのであれば土曜・日曜の開校を検討してはいかがだろうか。以前の答申にも統合する意見はあるのに、なかなか話が進まないのは、根拠法令や条例等、予算編成や補助金等、事務局側に統合を進めにくい問題があるのだろうかという疑問がある。

会長：ただいま、広範囲なご意見をいただいたが、ことぶき大学と市民大学については受講生の年齢層も同じという現状があるわけで、補助金の有無が受講料の有無にも関わってくる。ことぶき大学は昭和40年代半ばから各市で作られて、どこでも好評であるが、10年ぐらい前からは見直しをして余暇活動から地域活動への転換をしているところがいくつかの自治体で見られている。発足当時に比べ高齢者の位置づけもかわり、市民の方も趣味で楽しんでいるだけでは満足しない。社会自体がおさまらない。市民の意識も生涯学習に求めるものも変わってきている。町田はあまり変わらない形でずっと行われてきたが、見直す時期に来ているのではないかと思われる。

委員：ことぶき大学の話が出たが、簡単に言うと「居場所と出番」という役割というものがあると思う。今までのことぶき大学はなんとなく、高齢者の居場所的に機能していて、高齢者が集まって楽しい時間を過ごすものであった。しかし、今後は居場所だけではなく、市民の意識も変わり、高齢者の活躍の仕方も変わってきて、高齢者の役立ち甲斐というのも学習の視野に入れていくべきなのかなと考える。「居場所」とは何かと考えるならば、高齢者やことぶき大学に限らず、子育て世代、若者世代等もっと広い意味で捉える必要がある。「出番」については、社会に何がしか貢献をしながらつながりを作っていく、ということを考えるべき事だと思う。

次に、「地域」が盛んに言われるが、地域のあり方をどう考えるかはとても難しく、最近思うに、生涯学習センターにとっての地域との関わり方というのは、町田の政策にある地区協議会のようなあり方と、決してイコールではないのではないかと思う。私は余暇学が専門だが、趣味活動等で人々がつながるといのは、弱い紐帯（ちゅうたい）、つまり弱いつながりだが、そこにある種の強い絆があるというものであって、これを「弱い紐帯の強い絆」というが、必ずしも地区協議会が考えるような地域の強いつながりとイコールではない、また別の「生涯学習センターの地域との関わり」を一つ考えてみても良いと思う。3つ目として、市民協働の部署と生涯学習センターが一緒になって、市民大学の講座を1つでも作っていければ、市民活動と学んだことの間、何かもう少し接点が生まれるのではないかと思う。

会長：他にご意見はありますか。

本日途中でお配りした資料は、以前にもお配りしたが、報告書の案のイメージと、現在の事業体系である。今はこのような事業体系になっているが、現在検討しているのは、改めて目指す姿と具体的手だてを考えて事業に落としこむという作業である。1番目の「地域の課題を解決する学習」について、現状でも各講座で目標として行っているが、まだ不十分だという意味で強調している。市民大学とことぶき大学の統合・再編で新たな講座を設け、事業として展開するのも1つの案である。テーマの設定や出口作戦を意識しながら詰めていく必要がある。

委員：私も市民大学とことぶき大学の統合に賛成だが、以前ことぶき大学の受講者に若い方と一緒に参加することについて直接お伺いしたところ、「私は年寄りだけで集まりたい」とおっしゃった。一概に統合するのではなく、このような意見も念頭に置く必要があると思う。ところで事業はいつどこでどのように決めているのか伺いたい。

会長：概略のご説明をお願いします。

センター長：職員だけでなく、受講者の意向も組み入れるため、市民大学は学識のプログラム委員や受講生と講座を作る。まちチャレは市民から企画を募集して市民の方と一緒に考える。青年学級はボランティアスタッフの人達が参加する。ことぶき大学やそれ以外の講座は職員が考えている。

委員：横のつながりはあるかが知りたかった。同じような講座が出来る可能性はないだろうか。

センター長：係全体としても調整するので、全く同じになるということはない。

委員：ことぶきと市民大学ではそれぞれジャンルやプログラムが決まっているので重複することはない。暮らしの講座に「福祉」が入ってくると重複する印象を受けるが、健康をテーマの講座もことぶき大学は実技、市民大学は座学となっているので、細かく見ていくと重複してはいない。

会長：あえて、区別している感じもする。健康という目的は一緒なので、市民大学で実技があっても良いとは思う。

この議論は、事業の必要性も含め、生涯学習センターとして何を指すのか、に関わる。他の施設で行っている同様の事業もあると思うのでそのマッチング等、更に検討していきたい。

次に、2. 地域の人材（財）を活かすについて。

- 委員：従来からの答申を読むと、学ぶ場の提供はあるが、地域への貢献はいま一つという意見が出ていたと思う。確かに講座を受講していて、どの講座が人材育成のための講座かわからない。町田の環境は人材育成のための講座であり、その他はことぶき大学的な知識教養の講座であると確か何かで読んだ記憶があるが、どの講座が出口育成のための講座なのかははっきり区分けが必要だ。
- 委員：この資料を見て、何を検討したいのかわからない。「地域の課題を学習する」とは何か。法律の講座に出てみても、とても面白くて、学ぶところはいっぱいある。自分のスキルアップにはいいが、どうやって地域に返せばいいのかわからない。信号を守って渡るのも一つの法律と言われハツとしたが、そんなものではないと思う。市民大学も大幅に見直して、もう遅いが、再来年どういう講座をやるかを決め、タイムスケジュールを逆に立てなくてはいけない。ここでプログラム委員が入れ替ったが、12月～3月まで新しいプログラム委員が前期の講座を組み立てなくてはならない。市民大学でもことぶきでも、地域コーディネーターを育てるのだとしても、環境なら環境ボランティアを育てるなど、はっきり打ち出して、自分のスキルアップだけでなく出口を見つけてあげることが必要だ。出番というのが出たが、背中を推してあげないと、正直誰も入らない。最後の講座の締めには団体を呼んで説明するとか、学びなおしが出来るとか、その辺を手厚くやってあげないと、今は入らないと思う。リピーターも多いので、「楽しい講座で良かった、来年はどんな講座かしら」で終わってしまう。
- 会長：どういった人を養成するのか、そのためにどういう講座が必要かということだと思う。まず、生涯学習センターが求める人材が、どのようなイメージなのか、明確でないといけな。一つ出ているのが、地域活動コーディネーターといったものがあるが、これはどういうものか。先ほど島田委員が福祉と環境は初めからそういう意味を持っていたのではないかという意見があったが、どういう人が地域の中で活躍してほしいという考えはあるだろうか。地域活動コーディネーターがたくさんいれば地域が良くなるのだろうか。私はむしろ、普通の人々が普通の生活の中で近所とコミュニケーションをとりながら付き合いなり活動できる、そういう人がいっぱい増えれば、皆が幸せになり豊かに暮らせるというイメージだが。コーディネーターの為の講座と普通のことが出る人を育てる講座というのは別だと思う。
- 委員：両方あっていい。出口、出番が明確でない、つながりがない、ということであれば、初めからこういう人が欲しい、こういう出番がある、そのためにはこういう講座があるということを示せばよい。
- 委員：コーディネーターを増やしたいのならそういう講座を、もうちょっとゆるやかな講座で、後ろにはどういう団体あるかを示せば良い。道筋を立ててあげれば良いのではないか。単に講座を受講したい、というニーズにも応じなければいけないが。
- 会長：二つの育成があるという考え。それ以外に何かご意見はあるだろうか。
- 委員：どこに行っても出会う人はみんな一緒に、活躍する人はすでに活躍しているし、誰に向けてというのは難しく、子育て中のお母さんは悩みや不安があってここに来る。学習が先なのかボランティアが先なのかわからない。学習したから来たわけではなく、色々なことがつながって広がっていった。たまたまふらっと来たらここに子どもがいっぱいた。そうしたら、子ども達にいろいろな背景があることに気付いたという人が貧困の企画につながった。ボランティアであれば、ボランティアセンターがボランティアの紹介や、やり方を紹介しているので、ボランティアというのなら、ボランティアセンターにまず行こう。それと、今、人と人とが、なかなかつながらない。犬か子どもがいなくて外に出ない。わざわざ外に出る理由がない。犬をテーマにして集まってもらって、散歩をしながら子どもの様子を見るとか、切り口を変えてやったら面白いのではないかと警戒しないで友だちになれる。子どももそう。だけど、年寄り同士が集まっても、特に男の人は話さない。ベンチにぽつんぽつんと座っていて4時ぐらいになるとみな帰っていく。
- 会長：この2番目のテーマは3番目の「地域の組織をつなぐ」というテーマと連動するという気がしているが、ボランティアセンターはボランティアの募集をしているところで、活躍の場の紹介や

育てるところは担ってないのではないか。

委員：傾聴ボランティアや筆記の講座がある。目的を明確にしてやっているものもある。そうでないものもある。

会長：講座もやっているのか。

委員：手話や成年後見人等の講座も行っていて、すごく魅力的。せつかく町田にはボランティアセンターやシルバー人材センターなどいろいろな組織があるのだから、それぞれの組織と連携したほうが良い。

委員：市民大学の福祉の講座では社会福祉協議会にオブザーバーで入っていただいている。

委員：ボランティアセンターにいくと人材募集の張り紙がたくさん貼ってある。同じようなのが生涯学習センターにも貼ってあるが正直区別がつかないが、何が違うか。

事務局：生涯学習ボランティアバンクという人材バンクを持っている。自分で持っている知識や経験を登録してもらって地域に還元するというものである。社会福祉協議会や学校ボランティアと重複している部分はあるが、学校ボランティア側とは何度か協議もしている。

委員：町田のシルバー人材にもたくさんの人材がいる。規模は小さいが、ビジネスとして少しでも謝金をいただいてやっているところに人は集まり情報も依頼もたくさん来る。ボランティアバンクの「ボランティア」という言葉がひっかかる。社会福祉協議会などのボランティアとの違いを打出す意味で、「市民講師バンク」等にして、依頼者からお金を頂いても良く、それは生涯学習センターが関与するのではなく、地域のひと講師の人でやり取りしてもらえばよい。横浜市の青葉区には「登録講師」というのがある。先日の交流会にはデイサービスや、図書館の人も来てくれた。どちらかというと高齢者が多いが、「こういう講座をやって欲しい」という要望とマッチング出来たかと思う。

会長：社会福祉協議会は無償ではないか。

委員：無償である。

委員：学校ボランティアの場合は社会福祉協議会がらみであっても基本は有償。有償ボランティアとして予算を取っており、基本は1回1,000円、内容に応じては学校長判断で2,000円支払う。親が行うボランティアは、親という立場なので無償。庭の草を刈ってもらうのに老人会の方にそれこそ出番として、無償でってもらうこともある。子どもの前で授業的なものをしてもらう時、例えばこれまで社協から、アイマスク体験や福祉体験、点字の団体に、1コマ1,000円~2,000円で来てもらっている。学校によって金額は違う場合もあるだろう。お金の言いにくいことを伝えるのも学校ボランティアコーディネーターの役目。最近是有償であることが根付いてきている。

委員：ここに来ている人はボランティアにもいろいろあることを知っているが、一般の人は知らないのだから、無償で何かするのかと誤解してしまう。ここで言っているボランティアとは、個人的技術か、趣味的技術か、社会的問題を講義するのもかもしれないけれども、なにかそういった講義ができますよというものなので、ボランティアという言葉を取って、「登録講師」というようにした方が差別化出来るのではないだろうか。

委員：ボランティアは必ずしも無償でなくても良いはず。無償では継続が難しくなることを考慮し、出口、出番を考える場合、有償ボランティアとすることも検討したい。

事務局：ボランティアバンクについては、交通費や実費はお支払いして、赤字が出ない範囲でやっている。

会長：答申案にはこの点も入れて出していただければと思う。

委員：犬の散歩の話があって、そこに気づきということを言われたと思うが、どこで気づくが、それが大切だと思う。福生市の公民館の職員さんが、「ここに来るということは、学習することの権利の証明です」と言われた。そういう話を聞いて、気づくと色々な情報が得られることがわかり、今日まで来ている。どういう風に気づかせるかは一つのテーマだと思う。

会長：その他のところ等で大きく議論したい。

委員：3に関連して。地域を支え合う社会の構築が言われているが、市民大学の講座で、陶山委員が運営している特別養護老人ホームとコミュニティカフェレストランの施設を実際に見せていただいたが、陶山委員がいるから地域の連携がうまく動いていると思われ感激した。現場にいて問

題を熟知している方の講座は説得力も効果もある。収支財政上の問題や、介護の人手不足に関しても様々な課題もわかった。これらの課題に生涯学習センターにも関わって欲しい。その方が福祉の理解も深まると思う。

会長：4番目の市民に愛されるコンシェルジュというテーマについて、登録制のコンシェルジュといった提案も出ていますが、これについていかがでしょうか。

委員：市民の方が困った時に、生涯学習センターに気楽に来て相談できる場になって欲しいと思っている。今、学んだことを地域にフィードバックしようという話をしているわけだが、地域で困っている人に来てもらい、一緒に親身に相談に乗り、課題解決できるような窓口機能を持ってもらいたい。ここに来てもらったことをきっかけとして、地域を良くしていくような働きかけを、大学生でも良いし、時には職員も協働して行うと良い。

会長：困った時とはどういう時だろうか。身近なところにいろいろな相談機関がある。高齢者には高齢者支援センターが、子どもには子どもセンターがあり、それぞれのところに行くと思うが。

委員：総合窓口のような、千葉の「なんでもやる課」のようなイメージ。

会長：それは町田にはないですね。

センター長：今は、何でもやる窓口というのは難しい。対象者がわからない。

委員：市民としてイメージするのは、学校で、あるいはデイサービスのような介護施設で「コースが来てくれないかな」と思ったときに、ボランティア的なことをやってくれる団体を探したいとか、編み物をやりたいがサークルを紹介してほしいとか、子育てのことをどこに聞けばよいかとか、自分が参加する側か、団体の紹介をしてもらう場合の2つがあると思う。機関がいろいろあり、生涯学習センターの位置関係がわからないが、シルバー人材センターや社協を生涯学習センターが取りまとめるという絵図にはなり得るのだろうか。

会長：それはないですね。

委員：それぞれが完全に独立している。市民からすると、シルバーも生涯学習も社協も関係ない。サークルもあちこちに登録していたりする。町田市としてこんなにいっぱい色々な団体を持っているので、どうまとめるかというのは、ここだけの話ではないと思う。

委員：どうやったらスマホやグーグルとの違いを打ち出せるか、である。グーグルの方が早い。結構ご年配の方でもスマホを使いこなす時代である。どうすれば対面で、あるいは電話で話をすることで違いが出せるだろうか。そうでなければ、交通費をかけて、ここまでくる必要がない。すると、コンシェルジュって何だろうと考えてしまう。

委員：困っている人は、窓口がどこかはわからない。地域の人を活かすのであれば、地域にこういうのをやりたいという人がいたら、生涯学習センターに行けばいいといったように、その窓口に行けば教えてくれるとういうような人を養うと良いのではないか。

委員：それは生涯学習なのだろうか。

委員：全部ではないと思うが、それも一つ。講座として育成講座が必要。何か突破口が必要

委員：本当に何もわからない人は町田市役所の代表番号に電話するのでは。

委員：その前に諦めてしまうかもしれない。立ち話のような中で、世話を焼くおばちゃんのような人がいれば。

委員：生涯学習センターというとハードルが高そうなイメージで、公民館と違う。両方ではあるが、イメージが混乱しているのではないか。市民に愛されるコンシェルジュとは、ここに来ている人達を上手く活用するというのではなかったか。

会長：それも入っていると思う。

委員：私はコンシェルジュは必要ないと思っている。大抵のことは職員に聞けばわかる。町中のことを網羅している人なんていない。むしろコンシェルジュ機能をつくるのであれば、民間の団体が引き受けてその情報をスマホにアップできるようなものをつくり、生涯学習コーディネーターという人等こそが、センターの一角を借りてつくれば良い。コンシェルジュよりもむしろ、学生を集めて、子ども達の居場所を作り、その中から生み出されるものをやった方が良い。コンシェルジュは民間かNPOかこの卒業生かわからないが、そのような人がやった方が情報も集められるのではないか。

会長：あるべき姿で述べられているのが直接コンシェルジュには結びつかない。利用を伸ばすこと、

地域と市民を結びついて、市民に相談されて愛される。事業体系の中には自主的な学習の支援の2-1で学習相談の充実という形ではある。

委員：学習相談はここが直接やらなくてもよい。市民の人が情報を持ち寄る方が情報は集まるし、使いやすい。やり方、方法の問題ではないか。

委員：公務員の入職時には、例えば行政の外にあるシルバー人材センターについての説明はあるか

事務局：直接はない。

委員：高齢者支援センターが市内に何か所あって何をしているとか、社会福祉協議会とか、デイサービスと特養の違いすら分からない人が山ほどいる。そういう事を教える講座が欲しい。要所につく人が最初に受ける若葉マーク的な講座として、交番の位置から駐在所の位置まで教えてくれるような、そういう講座があるとよい。

会長：5項目目の「地域の中で学校を育てる」について、学校と生涯学習センターについてご意見ありませんか。学校の中でやるのではなく、何かを引き出して体験してもらうというイメージだが具体的にどのような事業が考えられるだろうか。

委員：東京都が配布しているパンフレットに、「土曜地域未来塾」とあるが、町田市はどのようにしているのか。

委員：地域未来塾としては、4～5年くらいを目途に放課後の居場所づくりを実施する。本年度先行して7校、来年度6校開始する。外の「まちとも」学校があって給食がある日は、どこかに居場所がある。居場所で見守るだけなのか、講座を行うのか、については、学校ごとに運営協議会を立ち上げて、委託等を行う。

会長：町田は先進的で、全国的にも注目されている。教育プランの中には詳しく書かれている。

委員：今の話の中で、社会教育・生涯学習の分野として今まで学校に入っていけなかったという現状がある。教育プランの改定に当たっては「学校」と「地域」と「家庭」も入って考えていくが、今まで、学校の中に入ってやっているわけではないので、こちらとしても具体的に出来るのが今のところない。図書館や自由民権資料館といった部署では学校に行っ何かをやるということがあったが、生涯学習センターでは、先生方と間接的なつながりはあったとしても直接何か子ども達に対して事業を行うというものはなかった。

委員：町田市における今までの学校教育と社会教育との関係性を考えると、生涯学習センターが中心となって連携を促進するのは難しいであろう。項目の1及び2がメインで3～5は具体策であり、並列ではないと考える。人材（財）の育成については、いろんな人がいるからこそ出来ることであって、講座で即席に養成出来るとは思えない。今まで町田にどういう人がいて、どういう活躍をしているか、それを一目瞭然に出せる人はいない。例えば福祉系ならば、このような施設があり、こういう人達がいてというような町田の状況を知ることが出来る講座、また、それらを学ぶような場所を作っても良いのではないかと。何かやりたくなった人がどこに行けば、また誰に相談をすれば良いのかが分かるかというのではないかと。このようなことを考えるうえで大切なことは、いつまでに何をするかである。また、例えば、ことぶき大学と市民大学を統合し、まちだ総合大学を作るのであれば、学びっぱなしにならないシステムを考える必要がある。学んだ人が活躍する場所についても考えた方がよい。一方で、活躍する場も大事だが、市長部局等で開催される講座との違いも打ち出す必要があり、ただのセーフティネット（福祉）ではなく、学習におけるセーフティネットを考えるべきだ。

会長：最後の「6. その他のインターネット活用」について。

委員：受講生からメールアドレスなどは特に集めてないと思うが、それらを取得してこちらから講座の情報を発信してはどうかという話である。

会長：すぐには難しいが、個人から了解を取って情報を集め、こちらから必要な情報を流すということとは有効な手段だと思う。

答申のまとめ方について。6つの視点があるが、メインとしては1・2、そして3だと思う。これらのテーマについて、それぞれの委員が、テーマを選んで具体的にどのような事業が考えられるかを意見としてまとめてきていただきたい。

2. 報告事項

(1) センター長報告と(2) 町田市生涯学習審議会の議論について

センター長：生涯学習審議会の動きについて報告いたしたい。

・公共施設再編計画の動きについて。6月～7月にかけて行った市民説明会及び意見募集について結果報告があった。ホームページで「公共施設再編」で検索していただくことも出来るので、「公共施設マネジメントの取り組み」というページに意見募集の実施結果が掲載されているので詳細はそちらをご覧ください。

・生涯学習審議会の答申の進捗について。事務局からは重点的施策について4つの案(①まちづくりの住民参画の促進。地域の課題を主体的に解決する市民を増やす②地域・家庭・学校の協働による教育活動の推進③一人一人の知識や技能が地域で活かされる社会づくり④地域文化の創造・継承)が提案されており、それらについて検討を行っている。

(3) 東京都公民館連絡協議会の活動について

委員：平成30年度の東京都公民館連合会の開催予定についてお配りした。私はこれら会議の中の委員部会に毎月1回参加している。平成30年度は町田市が委員部会の会長市として関係部会にも出席する。副会長市は小金井市である。委員部会では、研修会の企画・運営、会員11市による情報交換等を行う。主に町田市で会議を開催するが、他市の公民館の見学及び出張会議を年1～2回計画する流れである。今年度は小平市公民館の仲町テラスで行った。

3. その他

・日程について

次回は11月27日(月)休館日。時間は午後3時～5時で開催いたしたい。

・